

浩志会本会員活動については、17 年度に活性化策が打ち出され、18 年度の「あり方報告」の提言を経て、幹事団幹事、事務局をはじめとする皆さんのご尽力により、一時の停滞期を脱して年々活性化されております。

特に、20 年度は研究会員、本会員及びOB会員の三位一体を活動方針に掲げられ、本年 8 月の夏期研修会では 180 人以上の参加者の下、会場全体が異常な熱気に包まれました。河合代表幹事、佐野副代表幹事をはじめ、20 年度幹事団幹事のご努力に敬意を表するとともに、研修会終了後の幹事の皆さんの「やり遂げた」という充実感あふれるご様子に大きな感銘を受けました。

そして、このような幹事団の充実感を、会員の皆さん全員に味わっていただくこと、これこそが我々幹事の使命である、との思いを強くした次第です。

そこで、大変恐縮ですが、21 年度の本会員の活動方針について 2 点を提案させていただきます。

1. 業務運営方針ー「全員幹事の本会員」

浩志会のモットーである「全員参加の浩志会」をより具体的に実行していくため、幹事団幹事に加え、各会員の皆さんが、グループ活動、総会・夏期研修会等の活動に際し、運営面で幹事役として主体的に参加していただきたいと存じます。

この 1 年間なるべく多くの会員の皆さんに、例えば、グループ活動の企画（後述）、講師役、あるいは講師のご紹介、施設見学のご手配、懇親会のセット、あるいは夏期研修会における講師役、パネリストなど、会の運営側に立って、幹事団幹事と一緒に汗をかいていただき、おいしい〇〇サッポロビールで打ち上げていただきたいと考えております。

「ノーと言わない」云々を敢えてここに記す必要はないと思います。国際化、IT 化、自由化、地球温暖化など荒波の中で、よりレベルの高い、より安い、より速いサービスを求める消費者や市民のニーズに、民間企業も役所もてんてこ舞いしてきました。そして、我々本会員世代は、「ノーなんて言ってもらえない」環境の激変に何とか順応してきたのではなかったでしょうか。

それは、二日酔いの翌朝、突然に来るかも知れません。「浩志会の〇〇です。」と受話器の向こうから話しかけられたら、あるいは「浩志会より（ご依頼）」のメールを見つけたら、きっとそれは祝福コール（メール）です。できる限りのご協力を切にお願いいたします。（少なくともメールは返信してあげてください。）

2. グループ活動等の全体テーマ

「会員に聞く、ホントのところ」

会員名簿を見ていると、ちょっとツッコミを入れたい企業とか役所があります。

「ホントのところ、燃料電池車って終わってない?」、「ホントのところ、へ〇〇〇ルシアってやせるの?」、「ホントのところ、狭い日本に 98 も空港が必要?」、「ホントのところ、我々の世代の年金はどうなるの?」等々。

また、多くの会員が会社で CSR 担当をされていますが、一度集まって「お悩み相談会」をしてみませんか? 環境省など役所の方も入っていただいたら、議論はもっと深まるのではないのでしょうか。

更に、この組織とこの組織の人が話したら面白いだろうな、と思わせる組み合わせがあります。ご主張が異なる場合もあり得ますが、論争から得られるものも大きいのではないのでしょうか。具体例は敢えて示しません。

グループ活動(企画担当)は、このように、名簿を見ながら「こんな人の話がききたい」とか「こんな組み合わせでプチ・パネルをやったら面白い」などのアイデアをグループ幹事に提案する役割を担います。

既に、18年の「あり方報告」にも指摘されていますが、「人材(人物)の宝庫」浩志会を最大限活用するため、現場になるべく近い会員から「ホントのところ」を聞き、また議論することを本年度グループ活動等の中心に据えてはどうかと思います。

是非、グループ活動等の企画担当として、運営面から浩志会をエンジョイしてみても如何でしょう。(攻撃は最大の防御、とも言いますし。)

3. 各活動の予定

以上の活動方針を踏まえ、本年度も様々な活動に積極的に参加していただきたいと思えます。最後にグループ活動以外の各活動の予定を記します。具体的な日程や内容は、ミニコミ誌等でご連絡いたしますので、何卒よろしく願いいたします。

(1) 総会・夏期研修会

本会の創立記念日である 11 月 19 日に総会を実施するとともに、来年 8 月には夏期研修会を予定しております。

(2) サロン

ゲスト講師を招いて懇談を行うサロンを今年度も浩志会事務所で 2 ヶ月に 1 回程度開催する予定です。

(3) トップ懇談会

企業トップから直接お話を聞き、懇談させていただく会を年 3 回程度開催したいと考えております。

(4) 親子対談(世代間交流)

OB 会員、浩志会幹部等をお招きし、幹事団などとの懇談を予定しています。20 年度においてご意見もいただいているようなので、引き続き活発化するための方策を検討してまいりたいと考えています。